

衆議院議員

大串まさき

https://m-ogushi.com 国政報告



- ✔ 令和6年度予算の成立と経済再生
- ✔ 予算委員会での質疑
- ✔ 政策課題への取組について

ガソロック VOL. 40

大串まさき プロフィール

前 デジタル副大臣 兼 内閣府副大臣  
元 経済産業大臣政務官 元 自民党副幹事長

- ▶ 昭和41年生まれ。報徳学園高卒。東北大学大学院修了。IHI、松下政経塾を経てJAISTにて博士(知識科学)を取得。大学准教授の後に現職(4期)。
- ▶ 社会保障・産業政策・デジタル改革等の分野に注力。
- ▶ 家族は妻と2人暮らし+保護猫1匹(三毛猫)。趣味は釣り・絵画・多肉植物など。スポーツは高校まで剣道一筋。好きな食べ物はカレーとラーメン。座右の銘は「威ありて猛からず」。

お問い合わせ先

自民党への入党のご希望、国政報告会への参加希望など、お問い合わせは下記までお願い致します。

〒664 兵庫県伊丹市中央 1-2-6  
-0851 グランドハイツコーワ 2-12  
TEL:072-773-7601  
FAX:072-773-7602

✉ info@m-ogushi.com



**ミニ集会を開催中!** 地元では5~10人程度のミニ集会を積極的に開催しています。国会の裏話や政策の解説など、こちらから出向いてお話しさせていただきます。ご関心のある方は、上記のメール、または電話にてご連絡ください。調整させていただきます。

大串まさき 国政報告 自由民主党 兵庫県第六選挙区支部ニューズレター  
ガソロック 第40号 (令和6年5月10日号)

令和6年度予算の成立と経済再生

令和6年度予算が成立しました。3月末までに無事に成立したことで4月からの行政サービスも滞りなく実施できています。政権を担う与党にとっては、期日までに予算を成立させて地域サービスに支障を来さない責任があるので、これで一安心となります。岸田政権に対しては、さまざまなお意見を頂いていますが、これまでの成果を見る限りは良い実績も残しています。安倍政権時代は、デフレからの脱却がなかなか進まなかったのですが、ようやく経済回復の兆しが見えてきました。もちろん、昨今の物価上昇や円安は、日本経済や国民生活に大きな打撃を与えていますので楽観視はできません。賃上げ、設備投資、スタートアップ、イノベーションを同時に拡大するなど、所得と成長の好循環を実現するまでは、これまで取り組んできた政策的対応を切れ目無く続けることが大切です。今が日本にとって、文字通り正念場だと思います。

物価上昇を上回る所得増へ	
賃上げ率 (2024年)	非正規 6.08%UP↑ 2年連続で大幅上昇 中小組合 4.75%UP↑ バブル期以降、2年連続で最大の伸び 正社員 5.20%UP↑ 5%超えは33年ぶり
民間 平均給与	435万円 (2020年) → 458万円 (2022年) 2023年度 過去最高を更新へ

経済再生・デフレ完全脱却へ	
名目GDP	539.8兆円 (2020年) → 約591.9兆円 (2023年) 史上初の600兆円超えへ
日経 平均株価	40,109円 (2024年3月4日終値) 史上初、4万円を突破
NISA (一割+つみたて) 2023年	口座数 総買付額 累計 2,034万 累計 34兆円 成長と資産所得の好循環へ

将来も安心できる「年金制度」へ	
公的年金の 運用益	24兆円増 (2023年度) ↑ 累計運用益が132.4兆円に

企業の 経常利益	62.9兆円 (2020年度) → 約95.3兆円 (2022年度) 過去最高 史上初の90兆円超え
-------------	---

地方創生「観光・農林水産業」	
外国人 旅行者の 消費額	4.8兆円 (2019年) → 約5.3兆円 (2023年) 過去最高額を更新
外国人 旅行者	2,507万人 (2023年) コロナ後、インバウンドが大幅に回復
農林水産物・ 食品輸出額	9,860億円 (2020年) → 1兆4,541億円 (2023年) 過去最高を更新 さらに上昇へ

民間の 設備投資 (名目)	86.1兆円 (2020年度) → 約96.9兆円 (2022年度) 2023年度 過去最大規模の100兆円実現へ
---------------------	--

完全失業率	2.8% (2020年) → 2.6% (2023年) コロナ以降も低水準に抑制
-------	---

国・地方の 税収合計	105.8兆円 (2020年度) → 120.4兆円 (2022年度) 経済再生で財政健全化!
---------------	--



## 予算委員会での質疑

去る4月22日 予算委員会で質疑に立ちました。テレビ中継もありましたので、さまざまな反響も伺っています。今回は「政治資金」と「能登半島地震」がテーマの集中審議でしたが、与党のトップバッターとして、聞くべき役割もあり、その点も含めて少し解説します。

質疑冒頭で2日前に発生した海上自衛隊のヘリの墜落事故について、政府が把握している状況の報告を求めました。国民に対して、政府に報告させるべきことを優先した質疑です。

次に総理の訪米について伺いました。外交は、過去の積み重ねが重要だと常々感じています。私が経済産業大臣政務官を務めたとき、国際会議や大臣会合等で2年連続して面会した海外の閣僚達とは、より踏み込んだ議論ができました。今回の岸田総理の訪米の成功にも、安倍政権時代（当時は岸田外務大臣でした）からの蓄積があったからこそだと言えます。その積み重ねの外交戦略について伺いました。

政治資金の不記載の問題は、各議員がしっかりと説明すべきですが、政治資金規正法の改正は国会で徹底的に議論すべき課題です。私からは政治資金の流れを透明化するデジタル化の課題について質疑をしました。デジタルの世界では個人のマイナンバーのように政治団体にもID（例えばGビズIDなど）が必要ですが、現在はIDを取得できません。この点の改善を指摘し、さらに政治献金等はポータルサイトを通して一元的に管理すべきとの提言をしました。

最後に先の能登半島地震への対応について伺いました。特に、防災DX（デジタルによる災害対策・支援で、「物資調達・輸送調整等支援システム」など）が上手く機能していたのか、また医療DX（たとえば「災害時保健福祉医療活動支援システム（D24H）」など）が効率的に対応できていたかなど質問をしました。課題を整理して次の災害に備えるよう求めました。



### 委員会の理事の仕事

現在、厚生労働委員会の与党理事を務めています。理事は与野党の委員を代表して、法案の審議日程の調整や議事の確認、質疑者を決定するなど、舞台回しが仕事です。今期の私の担当は「附帯決議」の調整です。法案の採決に当たっては、野党から法施行における補足的な要望を受けて決議するのが慣例となっています。与党として了承できるかどうか、内容によって野党理事と交渉をしながら取りまとめます。野党の考え方や政府の立場がよくわかります。

## 政策課題への取組について

議員になって4期12年目になりました。文字通り中堅議員として活動しています。党内でも厚生労働部会長や各会議の事務局長など、取りまとめ責任者としての役割が多くなってきたので、自ずと発言にも慎重さが求められます。

たとえば、社会保障政策では、議員になる前は「よりよい医療・福祉サービスを実現します」とだけ言っておけば良かった訳ですが、議員になり政策決定に関与するようになれば、より具体的に「診療報酬・介護報酬のプラス改定を実現します」となります。しかし、今の立場では、医療・福祉サービス従事者の処遇改善、患者や利用者の負担軽減、健保組合などの持続性、国や自治体・事業主の負担軽減、世代間の不公平感の解消、製薬産業の利益（研究開発費）の確保、医療・福祉サービスの質向上や多様化、ゲノム医療など技術開発の支援など多様な視点でバランスをとりつつ、実現可能な結果（＝よりよい医療・福祉サービス）を出さねばなりません。「抜本的な改革を」というのは簡単ですが、実際の政策は堅実であることも重要です。

厚生労働部会長になると、診療報酬や介護報酬の個々の加算や減算などの報酬改定内容の問合せも多く、薬についても驚くほど多い薬種別の議論が必要になり、知識を得るため実務者の意見を伺うことも多くなります。許される限り、細かく深く検討するよう心がけています。

デジタル社会推進本部の事務局長としての仕事も、いよいよ取りまとめの段階です。例年、事務局長が党の提言書である「デジタル・ニッポン」を執筆しますが、実務者や業界団体、担当省庁など、多くのヒヤリングを終えて、本年は「データ戦略」を中心テーマに据えて、最終的な取りまとめをおこなっています。この提言を受けて、来年度の予算確保や法改正への準備が進められるので、今後の日本のデジタル政策の方向性を決める重要な提言となります。他にも、ゲノム医療の推進、女性の生涯の健康対策、中小企業DXなどの事務局長も務めていますので、こちらもしっかり提言をまとめていきます。



部会での発言がメディアに取り上げられることも多々あります

### 編集後記

政治と金を巡る問題では厳しいご批判や、無派閥議員としての活動の評価など、さまざまなご意見を伺っています。私も党内では、より踏み込んだ対応が必要だと強く訴えています。ここは党を変革する大切な時だと思って行動し

ています。一方で、令和7年度予算に向けた作業が進んでいます。「骨太の方針」の取りまとめなど党内議論は終盤戦になりつつあります。解散の噂が聞こえ始め、週末は地元での活動を精力的にこなしつつ、国会では与えられた仕事を精一杯頑張ります。